

## 2003年度 学外共同研究報告

**学外共同研究A**  
**障害のある個人における携帯メール使用**  
**についての研究**  
代表者 望月 昭(文)

この研究内容については、「自己決定・QOL」の項でも触れているが、今年度は共同研究の最終年度として、院生や学部生を中心に、ろう重複の障害のある成人、生徒を対象とした、携帯メールおよび静止画(写メール)を用いた遠隔地間のコミュニケーション成立のための援助・教授のプログラムを開発してきた。また今年度から、慢性失語症の障害を持つ成人も対象に、地域店舗における外食の際の注文行動を、携帯電話のデジタルカメラ機能を代替コミュニケーション(AAC)のひとつの方法として検討し、また、それに伴う地域成員の必要な援助内容についても検討された。

**学外共同研究B**  
**障害のある個人における携帯メール使用**  
**についての研究**  
代表者 望月 昭(文)

現在、小学生児童までの「子ども」を対象とした専門的な人材養成の例は高等教育機関における様々なプログラムの提案がすすみつつある。

一方、中学生、高校生を中心とする「青少年」の社会教育分野での育成に当たるスタッフの必要性が高まっており、そのスタッフはボランティアを含めて存在するが、それを専門に養成する機関はない。青少年活動施設や団体などで青少年の育成に当たるスタッフの力量形成のために、専門的な養成プログラムができることは、近年の青少年をめぐる社会的な問題への対応にとって大きな意味を持つと考えられる。

本プロジェクトは、ユースワーカー養成のための専門的なプログラムを開発にむけてプログラムのコンセプト、教育内容と方法、資金計画等を含めた調査・研究を行なうことを目的に、京都ユースサービス協会との共同研究としてスタートさせた。

1. 本年度は、計3回(11月14日、12月16日、2月18日)の研究会を開催した。

### 2. 研究メンバー

立命館大学：津止、野田、遠藤。今後関係する教員・大学院学生を加えていく。

京都市ユースサービス協会：水野氏。今後関連する専門スタッフを、児童館関係、社会福祉協議会、NPO各団体他から客員研究員等として加えていく。

### (今後の活動の見通し)

#### 研究会スケジュール

2003年10月以降、関係者による下ミーティングの内容をもとに、2~3ヶ月に一度研

研究会を実施する。

2004 年度中期に、公開研究会等を実施し、プログラム実施へのニーズやアイデアを広く集めて、教育プログラム実施の可能性への評価をすすめる作業をすすめることも検討する。

2005 年度に開講、もしくは開講にかかわる本格的な検討に入ることを目標におく。